

(件名) 大隅半島の観光の新ルート確立に本港区エリアを活かす件

(陳情の趣旨)

大隅半島の観光はこれまで鹿児島市や薩摩半島に比べて著しく取り残されてきました。しかし大隅半島には手付かずの原生林など豊かな自然環境、黒牛や唐芋などの全国一を誇る産物、独特の民俗文化などの観光的な魅力をふんだんに有しています。これが活かされずに眠っている理由は、錦江湾が観光ルートのさえぎり、アクセス的に遠隔地になっていることがあります。

最近、国際クルーズ船の寄港するマリンポートと大隅半島を小型の高速船で結ぶ運動が、鹿屋市では官民一体となって高まり、これを受けて鹿児島県が鹿屋港に浮き桟橋を建設するなどの動きも生まれています。ポストコロナ禍の時代が来ると、マリンポートから鹿屋港へクルーズ船乗客を誘致できる可能性が高まっています。

その期待とともにマリンポートから鹿屋港へ、鹿児島市民および国内観光客も誘致できる可能性も生まれています。実際、今年中に一般観光客を運ぶ船が20回も航行する予定です。来年は大隅半島の古墳巡りツアーでもこの航路が活かされます。

このような状況を踏まえて、マリンポートに大隅半島と結ぶ船の発着ターミナル、情報発信の拠点構築していただきたいものであります。

さらにもう一つ、大隅半島の観光を切り開く主力ルートを確立するために、本港区エリアこそ重要な拠点とすべきであります。

本港区エリアは新幹線や航空路などで来鹿する観光客を受け入れるのに地理的に最も有利であり、また風景的にも最高の場所であり、また環錦江湾の中心地でもあります。本港区エリアのほかに、新しい時代の観光地をつくり出す条件を兼ね備えたところはありません。ここが新しい時代の観光地に生まれ変わることは、ここが大隅半島に観光客を誘致するための拠点となります。

昔の大隅半島は本港区と湾内航路で直結しており、天文館の活性化にも大きな役割をはたしていました。

以上の趣旨に基づき、下記の事項を陳情いたします。

記

1. 大隅半島の観光は錦江湾を活かすことで新しい時代を迎えることができます。  
このため本港区エリアに大隅観光の拠点となる観光高速船のターミナル、および各観光地を紹介し情報を発信する拠点施設を建築して載きたいと陳情するものであります。
2. 本港区エリアは大隅半島をはじめ薩摩半島の南部、湾奥などにつながる観光ルートの要として、その役割を重視したランドデザインを描いてほしいと陳情いたします。